

令和5年度第1回行財政評価委員会・会議録

日時 令和5年8月24日（火）13時30分～15時30分
場所 市役所8階 802会議室
出席者 河内長野市行財政評価委員会 4名（欠席：岡島委員）
事務局 宮阪総合政策部長、今矢政策企画課長、及び政策企画課職員
事業担当課 政策企画課、自治協働課、産業観光課、農林課
傍聴者 1名

案件1. 行財政評価委員会委員長の選出について

委員長に中川委員を、委員長が欠けたときに職務の代理を行う副委員長に岡島委員を選任する。

案件2. 令和4年度地方創生推進交付金事業の評価について

事業：「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

○要素事業1 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

<主な質問、意見>

- 委員：波に乗るには時間がかかる事業だと感じる。また、（コロナ禍の影響もあり）実績値が1年遅れで出てきていることも踏まえると、評価は妥当であると感じている。
- 委員：まだ日にちが経っていないことから、良い実績が出ていないのだと思うが、南花台住民だけでなく河内長野市民に対して、（取り組みに関する）啓蒙があまりされていないように感じる。「クルクル」は高齢者にとって便利なものだと思うので、もっと知れ渡れば良い。
- 委員：事前に送付された資料を確認した際には数値目標の成績がいいとは思わなかったが、（コロナ禍など）色々この期間の事情もあることや、（数値目標の設定については自動運転のみを対象としていることから、）手動運転と自動運転の違いなど、説明がなされれば良いと思う。事業の目標としては、「移動支援」と「スポーツによる魅力的な街」の二つかと思うが、前者は遅れはあったが成果が出てきているので、うまくそれを見せることが必要。後者はワークショップが始まったばかりというところで、種を蒔いているところだと思うが、先ほど井戸委員が意見していたとおり、今後は皆さまに伝えていくことが重要だと思う。
- 委員長：モデル事業であることを、他の地域にどのように応用できるか、市民に納得・説得できる位置付けが必要。また、コロナが原因とはいえ、成果指標そのものが目標達成できなかったことは否定できない。代理指標を導入するやり方もあったが、政策評価のスタイルとして、工夫が足りない。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

事業：地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

＜担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

○要素事業1 観光誘客促進事業

＜主な質問、意見＞

委員：万博がチャンスと思う。そこでのPRもされるということで、評価としては妥当と考える。

委員：とても良いマップだと思う。

委員：紙のマップはどんな時代でも必要だと思う。（その場所に）行く前に事前に調べる人が多いので、ウェブでも発信しているということだが、そこもしっかりやっていくと、相乗効果が期待される。

委員長：このマップの配布場所はどこか。

担当課：主には河内長野駅前の観光案内所や、道の駅を中心に配布している。そのほか、市内を訪れた方を案内する観光ボランティアが、このマップを活用しながら案内を行っている。

委員長：マップが有効であることは認めている。このマップを製作し、拠点配布したことでの観光客増加の因果関係の実証が必要だと思う。妥当であるという評価はつけるが、マップを配布したことが明らかに観光客誘客について効果があったということを論証する通路建てをしておいて欲しい。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○要素事業2 木のある暮らし推進事業

＜主な質問、意見＞

委員：森林組合は、河内材をブランド化して販売しようとしているが、河内材の販売だけでなく建物を建てているので、地元工務店のライバル社になってしまっている。地元工務店と協力して、地元の木を使っていくよう盛り上げていける体制ができれば、一番良いと思っている。九州などであれば床板の販売に徹した森林組合などもあり、そういったものに徹したところに補助金をおろすなどして、（地元工務店と役割分担により）地域全体での協力体制ができるよう考えるべきでは。

委員長：資料上は「おおさか河内材」をブランド化して販売していく話にしか見えなかったが、それを製品化して建物を建てるところまで、森林組合がやっけてしまっているのか。

担当課：森林組合の中に建築事業部があり、建物を建てるところまでやっている。

委員 長：それはそれで、森林組合が自力で頑張っているから、否定してはいけないと思うが、横に広げていく方法がないのか。（市全体で）総力戦に持っていけないか。

委員：リフォームが4件、新築が2件あったとのことだが、新築2件というのは河内長野の人か。
担当 課：そのとおり。

委員：モデルハウスを作るなどして、良さをコマースでできれば（市外の人へも）広まっていくのではないかと思った。全般の評価としては、河内長野の資源である山林を活用して、家を建てる、それに対しての補助制度は良いと思う。

委員：市内での「河内材」の使用供給量は上がっているし、妥当かと考えている。この制度は河内長野市内（の建築）に対してのみ補助金が出るのか。

担当 課：河内長野市内で建てるものに対してのみ。

委員：「河内材」のブランド化・知名度の向上が目標だとすると、市内に限らず、市外に「河内材」というブランドを発信しても良いのでは。地産地消はまた違った意味合いで良いが、市内での供給量を上げて使ってもらうのを目的にするのかどうかで、戦略的には違ってくるのかと感じる。

委員 長：河内材のブランド化にあたっては、それに関連する事業者は総力戦でやらないといけないものと思っている。「おおさか河内材」の認定事業者として認定されるのは、どのような事業者か。手を挙げたら認定されるのか。

担当 課：製材所が対象となる。

委員 長：森林組合の位置付けは。

担当 課：森林組合も、認定された製材所の一つ。

委員：森林組合が概ね占めているのではないか。

担当 課：そうではない、何社かあるうちの一つ。林業事業者や製材所が集まった販売促進協議会がある。

委員 長：河内材の流通経路と消費のインセンティブの与え方に工夫の余地があるのではないか。河内材の品質のブランド性があれば需要が拡大すると思われるのに、市内の事業者とライバル関係になると、材の流通が止まってしまう。地元の建築関係の事業者が、全体的に協力できるようなシステムを、開発してほしい。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「概ね妥当」

○要素事業3 産地ブランド力向上事業

＜主な質問、意見＞

委員：小山田の桃の評判はよく耳にする。良いブランドであってほしいと思う。

委員：小山田の桃は、他の地域の桃と比べても、素晴らしく美味しい。ジャムなど、他の加工品にするよりも、桃そのものを食べてほしい。今後の課題は後継者不足。新しい担い手を育てていくことが重要。

委員：事業費を見ると、もっとお金をかけて苗木を渡すなど、もうちょっとできないのか。優良品種を作るため品種改良することは重要だと思う。ただ生産者の減少は、苗木の改良だけでは解決しないので、もう一工夫、考えていかなければならない。

委員長：小山田の桃は、ブランド化されている他の地域の桃に負けず劣らず美味しいので、もっと高く評価されてもいいのではないかと思う。事業費がたったの77,000円ということで、苗木を渡すだけではなく、他の形での支援もできないか。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

○要素事業4 世界かんがい施設遺産登録PR

<主な質問、意見>

委員：妥当である。（寺ヶ池周辺が）綺麗になっている。

委員：妥当である。

委員：世界かんがい施設遺産という言葉聞いたことがない人が多いと思うので、もっと宣伝すればいいと思う。

委員長：世界かんがい施設遺産もそうだが、それだけでなく、沢山ある河内長野の良いところをもっと宣伝して行って欲しい。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

○要素事業5 自転車の駅整備事業

<主な質問、意見>

委員：自転車で河内長野をまわるのは気持ち良い。応援している。

委員：河内長野は起伏が激しいので、観心寺や天野山へと、色々回れる電動自転車は必要である。

委員：自転車や徒歩でというのは、（脱炭素などの）時代の流れもあって大事なので、自転車の充実を維持していくことが重要。

委員 長：関西サイクルスポーツセンターとの関係は謳っているのか。

担当 課：自転車を進めるまちという目標も持っており、関西サイクルスポーツセンターとも連携しながら進めている。

委員 長：それならば、もっと力を入れて、自動車より自転車の方が楽しめると PR する。中高年向けの平坦コース、青少年向けの起伏コースなどを作ると、スポーツサイクリングを楽しむ人が出るのではないか。「自転車のまち河内長野」で売り出してはどうか。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

○要素事業6 道の駅「子育て応援」機能強化事業

担当 課：当該事業の令和5年度事業費について、当初想定していた工事費では不足することが判明したため、令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の経費増額の変更申請を行いたい。本委員会にて承認いただきたい。

各 委 員：（全会一致で承認）

<主な質問、意見>

各 委 員：（評価は全会一致で妥当）

委員 長：屋根は天幕タイプとのことだが、耐用年数は落ちないのか。

担当 課：耐用年数は上がると聞いている。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

案件2. 令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

<担当課から事業内容・評価の概要案を説明>

<主な質問、意見>

委 員：サッカースタジアムの完成は楽しみである。今後、色々な所との連携や発信が大事になると思うが、市、競技場、スポーツ団体などとの協力により、ぜひ成功へ向けて進めてほしい。

委 員：プロサッカーチームは子どもの夢の場所だと思うので、この大きなプロジェクトによって出来たサッカーチームが河内長野市にあるとなれば、人口が増えるかもしれない。

委 員：企業の協力によるサッカーチームは、若い人達には大きく訴える要素になる。3番の公共

交通事業は人材を派遣するタイプの企業版ふるさと納税ということか。

担当課：そのとおり。人件費相当分を市に寄附いただいたら、市は費用負担なく専門知識を持った人を雇用でき、企業側はその寄附額の最大9割を税控除できるというもの。

委員：そういった人材交流は良いと思う。(モックルMa a Sについても、) デジタルも、人が作るものなので、そういったことができる人を(企業から市へ) 派遣してもらうことは良いと思う。

委員長：評価は妥当で異存はない。要素事業①については、157,510千円を25社から受領して、そのうち33,244千円を使って、サッカーと連携したまちの魅力向上を行ったという理解で良いか。

担当課：33,244千円については寄附を取り崩して使ったわけではない。あくまで寄附は建設のため受領したものであるが、昨年度使った事業費については、基本計画や、土地の不動産鑑定費用。

委員長：157,510千円は令和4年度中に受けた寄附という理解で良いか。

担当課：そのとおり。

委員長：令和4年度中に受領した寄附金は基金へ積み立てたと(資料に)書いてあるが、その基金から33,244千円は出てきたということか。

担当課：そうではない。この事業における寄附は、スタジアムの建設費として募集しており、スタジアムの建設が令和5年度から着手というところで、前段階で寄附を募っていたもの。今集めている寄附金は、まだ執行していない。企業版ふるさと納税は、複数年度にわたって受領した寄附金を基金に積み立て、一気に執行する運用ができる制度になっている。

委員長：(要素事業②については) これは(事業費)4,114千円のうち、(企業から受領した)100千円が使われているということか。

担当課：こちらについては、そのように使われている。

委員長：(要素事業③については) 事業費25,790千円となっているが、これは人材派遣を受けている事業の、形式的な予算のことをいっているだけのことか。

担当課：お見込みのとおり。

<委員会の評価> (「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価)

「妥当」

案件4. その他

事務局：次回の行財政評価委員会では、河内長野市第5次総合計画の各施策に対する評価を予定している。今年度は評価対象重点施策として、福祉教育分野から施策6「地域福祉の推進」、施策10「健康づくりの推進と医療体制の充実」、施策14「青少年の健全育成の推進」の3施策が評価対象となる。開催時期については今年10月下旬～11月頃を予定。

委員長：ご意見・ご質問はあるか。

各 委 員：(特になし)

事 務 局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。
また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。
その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委 員 長：事務局に一任する。